



ヒトラー・ドイツの諸同盟

ナチスの外交

外交政策の目標は、新しい生活圏の征服の前段階としてヴェルサイユ条約を改定することである。ヒトラーは、ドイツの平和的意志を宣言するが、集団安全保障政策を拒絶し、二国間協定を弁護する。

1933.7. 教皇庁との政教協約 国際軍縮会議を拒否し、国際連盟から脱退した(1933.10.)後、ドイツは孤立化を深める。

1934 ボーランドと不可侵条約終結 フランスの同盟体制を揺がす。ヴィーンでナチス勢力の一揆(→p.440)が失敗し、東方ロカールノ政策が拒否された後、ザール地方の住民投票とその再編入が、最初の外交的成功となる(1935.1.)。

1935.3. 国民徴兵制の再実施  
1935.6. 英独海軍協定(戦艦数比率は対英35%)の締結。

1936.3. ロカールノ条約(→p.419)の解消通告,非武装地帯ラインラントに進駐。ヴェルサイユ体制は終りを告げる。

1936.7. 独奥協定 オーストリアと友好関係を回復。8月には、ベルリン・オリンピック大会が開催され、また、2年間の兵役義務制が施行される。

1936.11. 日独防共協定 共通の敵(ソ連)に対する日本との協力体制が始まる。独伊の協調は<ベルリン・ローマ枢軸>在野に向けられ(1936.10-11.)、防共協定にイタリアも参加(1937.1.)する。後に、スペインも加わる(1939.3.)。

新しい生活圏の征服はナチス外交の緊急の目標となる。ニュルンベルク・全国党大会(1936.9.)で、経済的自給体制達成のための4ヵ年計画が公示される。

1937.11. フーラー会議でヒトラーは彼の戦争計画を明らかにする(「ホスバウハ文書」)。そこでは暴力による「新生活圏の征服」が打ち出される。

1938 不適当な結婚を理由に陸相W.v.ブロンベルク(1878-1946)が免官され、ヒムラーとゲーリングの陰謀により軍最高司令官W.v.フリッチェ(1880-1939)が罷免される。軍部の画一化を遂行する国防軍最高司令部が設置される。J.v.リッペントロップ(1893-1946, 処刑)が外相に就任。ライヒスバンク総裁シャハト(→p.433)の罷免と<ドイツ・ライヒスバンク法>の制定(1939.6.)で、ヒトラーは財政に対する無制限の指令権と監督権を掌握する。

1938 オーストリアの<併合>(→p.440)。ドイツ・オーストリア再統一(3.13.)を人民投票で確認。

チェコスロヴァキア紛争に関する国防軍へのヒトラー秘密指令(1938.5.30.)、陸軍総司令部長官L.ベック(1880-1944, 自殺)の退陣、ベルヒテスガーデンとバート・ゴードスベルクにおけるヒトラー・チェンバレン会議(1938.9.)と続く。

1938.9.29. ミュンヘン会談 英伊の仲介でヒトラー・ムッソリーニ・チェンバレン・グラディエの間で開催され、チェコスロヴァキア領ズデーテン地方のドイツ割譲が決まる(1938.10.)。独英不可侵宣言(9.30.)と独仏国境最終承認宣言(12.6.)とが、ドイツの領土拡張を停止するために出される。ズデーテン地方の割譲が、ドイツの最後の要求であるとのヒトラーの誓約(1938.9.26.)

にもかかわらず、さらに残部チェコ問題の解決に関するヒトラーの秘密指令(10.21.)が出される。チェコスロヴァキア大統領ハニハ(→p.441)のベルリン訪問(1939.3.16.)、およびドイツ軍のチェコスロヴァキア侵入(1939.3.15-16.)。

1939.3.16. <ドイツ保護領ベーメン・メーレン>の設置 ドイツ軍進駐によってメーメルの併合がなされる(3.23.)。ドイツ・ルーマニア通商協定の締結(→p.447)とともに、バルカン・ドナウ諸国の経済的依存(「大ドイツ」の供給圏として)が始まる。

世界大戦の勃発と諸同盟(1939-42)

1939.3.21. ボーランドに対するドイツの要求(ダンツィヒのドイツ併合, 東プロイセンとドイツ領とのあいだに格外法権領域を許可することは拒否され交渉は決裂する(3.26.)。ポーランドに対する英仏の安全保障宣言(9.31.)の後、ドイツはポーランドとの不可侵協定および英独海軍協定の破棄を通告する(4.28.)。

1939.5.22. 独伊友好同盟条約(「鋼鉄条約」)、エストニア・ラトヴィア・デンマークとの不可侵条約(5.31-6.7.)、独ソ不可侵条約(1939.8.23)、秘密議定書を伴うなどを前提としつつ、ドイツのポーランド攻撃が始まる。ポーランドと同盟条約を結んだ(8.25.)イギリスの仲裁行動は、ドイツの要求を認識し、ポーランドにも拒否されて、挫折する。

1940 日独伊三国同盟。ヨーロッパと東アジアの新秩序と相互援助義務を目的とする。ハンガリー・ルーマニア・スロヴァキア・デンマーク・フィンランド・南京政府・ブルガリア・クロアチアを加えつつ、1942年の日独伊軍事同盟に発展する。